むなかた

長月（ながつき） 第691号

目次

宗像国際環境一〇〇人会議 3・2
秋季大祭・造営日記 4
沖ノ島祭祀 5
神宝館だより・お知らせ 6
宗像大社歌会詠草 7
御造営奉賛者御芳名 7

よって！ 今夏、母校ハンドボール部OB会に出席した。話題は当時の練習内容などに花が咲いたが、ふと二十年前の夏はこんなに暑かったか？という話になった。気になって気象庁のホームページで調べてみたところ一℃ほど七月の平均気温が上がっていた。たった一℃でこうも違うものかと驚いた。もともと地球は温暖期や小氷期のような変動を繰り返すものらしいが、過去千三百年間の気温変化より近年（特にこの四十年間）の温暖化が過去に例のないほど進行していることが明らかとなっている。今年三月に亡くなった宇宙物理学者のスティーヴン・ホーキング博士は一昨年、気候変動等が人類の生存に大きな脅威をもたらし、人類の滅亡を千年後と予測したが昨年その期限を百年後と大幅に短縮した。今に生きる私達は大切に残されてきた文化や自然を百年後、千年後の子孫に残していく義務がある。かつての日本人が持っていた自然に対する畏怖畏敬の念、感謝の心を取り戻し、「今」を積み重ねていくべきではないだろうか。（久）

水と命の循環～自然への感謝と畏怖
Why? Sustainable なぜ、持続可能か?

第五回　宗像国際環境一〇〇人会議

海の鎮守の森構想を掲げ、海藻などが枯れていく磯焼け問題や、海岸に流れ着く漂着ゴミなど海の環境保全に取り組む「宗像国際環境一〇〇人会議」。

第五回目となる今回は、「水と命の循環～自然への感謝と畏怖」をテーマに、なぜ、持続可能か?について考え、八月二十四～二十六日の三日間で八百名を超える参加を得た。

近年多発する自然災害。その多くが激甚災害に指定をされている。温暖化により農作物にもたらしている影響、その対策。世界の海に漂うマイクロプラスチックの存在を映像で共有し、「プラスチックのスープ」と表現される海の劣悪な現状を見た。

近年の環境問題は、経済発展の名の下に自然を搾取し続けた結果とも言われている。

自然は多くの恵みを育む一方で、時として荒れ狂い、自然災害を起こす。古代の人々は自然の摂理を熟知した上で、自然そのものに神を見出し、畏怖畏敬の念で崇めてきた。

第5回 宗像国際環境100人会議　宗像宣言2018

昨年、世界文化遺産に登録された、『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群は、古代より海の信仰が息づく地域であるが、近年その海が著しく変化し、漁業に携わる人々は海の生態系の変化などにより、限界に達しているとの声もあがっている。

今年、第5回目となる宗像国際環境100人会議では、「水と命の循環～自然への感謝と畏怖」をテーマに、なぜ、持続可能か?について3日間の議論を重ねた。頻発する豪雨、温暖化の影響による農作物の影響、マイクロプラスチックの問題などを共有し、人間の利便性のもとに、日本の村々にあった循環型社会をわずか半世紀で大きく変容させてしまったことを再認識した。

かつての日本は日本神話の海幸山幸にもあるように、山の民と海の民は補完しながら、畏怖畏敬の念で豊かな海と山を育んでいた。しかし、経済を中心とした今日の大量生産多量消費は、わずか百年という短い時間で国々、地球を大きく変えてしまった。そして、その対応は急がなければならない。

グローバル化という名のもとに地球規模で失われてきた地域や国々の多様性、循環系を取り戻すためには、かつて貨幣経済と米や海産物などで循環型社会を維持していたローカルな仕組みを基礎とした社会を目指すべきではないか。

過去に学び、現状を深く見つめ、未来を透視する想像力を研ぎ澄ませる。若人の伸びゆく力も得て、多世代で調査を継続的に行っていく。

私たちは、ここ宗像の地で、先人たちの声に耳を傾け、環境と社会と経済とが共存し、慈しみや、優しさにあふれた環境・生命文明社会の実現を目指すことを宣言する。

平成30年8月26日　第5回宗像国際環境100人会議参加者一同

宗像国際環境100人会議　学生宣言

『海を耕せ』。これは、長崎大学名誉教授の中田英昭氏が私たち学生に宛てたメッセージである。海を耕すというイメージは湧きづらいが、地球表面の7割を占める海を知り、次世代へ豊かな海を残していくことがこれからの世の中を生きてゆく私たち『WAKOUDO』の使命であるということを教えてくれた。

現在の便利で豊かだと錯覚している生活の裏側には、必ず影響を被る自然がある。そのことに対して私たち人間はあまりにも無関心ではないだろうか。海の生き物も同じ地球に生きる仲間。その環の中で生かされているのは私たち人間の方。あの海岸ゴミに込められた命への問いかけにどうしたら答えることができるのだろうか。海からの視点で私たちの暮らしを考え直す必要がある。

私たち学生一同は、豊かな海を次世代に繋げていくために、現在行われている魚礁設置や海ゴミの回収活動等を継続する。また、調査を行って得た結果を積極的に発信するほか、学校の授業で体験型の環境教育を行うことで海の環境問題への関心を広げ、活動の輪を広げていくことで次世代へと引き継ぐことができる「持続可能な環境活動」を行うことを、ここに宣言する。

平成30年8月25日 第5回 宗像国際環境100人会議 学生分科会 参加者一同

現在の便利で豊かな生活を獲得した裏側で、影響を被っている自然が存在し危機的状況にある。

「海の鎮守の森」に鎮座する当社では、海からの視点で考え直し、日々加速する環境悪化を改善していく為にも、国内外に強く発信し続けていく。

秋季大祭

十月一～三日に秋季大祭が斎行される。この秋季大祭は【一日・辺津宮入御祭（みあれ祭）】【二日・例祭】【三日・秋季総社祭】となる。

一日の「みあれ祭」は、中世に行われた長手神事を昭和三十七年に再興したものである。「長手（ながて）」とは長い布を竹の旗竿に附したもので、沖ノ島からこの長手を宗像の神の象徴として辺津宮に迎え祭を営むものである。当社の最重儀である例祭が二日であることから、その前儀としてこれを行う事となった。その祭儀名を「みあれ祭」としたのは「神のみ生（あ）れ」、即ち宗像大神の御神威の一層の発現を祈求する意味で出たものである。

秋季大祭全体と同義に認知されている感のある、この「みあれ祭」は、三宮の御神璽が海・陸を神幸し辺津宮に入るまでであり、最重儀は前述の通り二日の例祭なのである。

宗像三女神がお集まりになる年に一度の祭典、多くの方のご参拝をお待ちしております。

10月1日　交通規制図

時満ちて道ひらく 造営日記 ㊸

沖津宮社殿保存修理工事

七月二十八日、設計監理者並びに県の担当者等と沖ノ島に渡り、沖津宮保存修理工事の中間検査を行った。二月の着工から五ヶ月ほど経過したが、着工当初は時化による渡島延期が続いたうえに、部分的な解体をしていくなかで予想以上に木材の腐朽が著しく、修理工事が増えた為に、竣工が八月下旬から十月中旬にずれ込むとのことであった。今回の修理では、できる限り使える部材を残し、修理前と同様になるよう修復を行なう指定文化財建造物修復に準じた修理を行っている。

中間検査の様子

矧（はぎ）木にて修復

沖ノ島祭祀 8

―華麗なる神宝（3）
盾・矛・甲冑・弓矢と神祭り―

國學院大學　神道文化学部教授　笹生 衛

宗像・沖ノ島祭祀遺跡、六世紀後半の七号遺跡からは盾・矛（槍と同様、長い柄に刃の付いた穂先を装着）が出土している。盾は、装飾用の鉄板（長さ五三・五センチ）が出土した。福岡県岩戸山古墳の石盾と同じ形をしている。これを参考にすると、木製か革製の盾の中央に取り付けられていたと考えられる。矛は二六本あり、鉄製の穂先と石突き（柄の根元の金具）が束ねられたような状態で出土した。この他、七号遺跡からは、矢の容器「胡籙」、甲冑が出土している。甲は乗馬用の「挂甲」である。刀剣以外に多様な武器・武具が、六世紀には沖ノ島の神へと捧げられていたのである。盾・矛、矢の容器「胡籙（靫）」は、伊勢神宮の神宝と共通し、神への捧げ物としての性格が考えられる。しかし、それだけだろうか。

神祭りと武器・武具との関係は、沖ノ島祭祀遺跡では四世紀後半まで遡り、五世紀、日本列島の各地の祭祀遺跡からは共通して鉄製の鏃が出土する。群馬県の宮田諏訪原遺跡からは挂甲の部品が、奈良県の南郷大東遺跡からは木製の盾の一部が出土した。静岡県の明ヶ島五号墳では、五世紀に神祭りと関係する品々を、粘土で小型の模造品としたものが約二七〇〇点出土した。そこには、盾、甲冑、弓のほか、矢を入れた靫が含まれる。五世紀には、神祭りと武器・武具とは深い関係にあったと言ってよいだろう。

武器・武具と祭祀・儀礼との関係は、貴人を葬った古墳では、さらに古く遡る。四世紀初頭の大型の前方後円墳、奈良県のメスリ山古墳では、多数の鏃や槍と、黒漆塗りの盾が他の武器、工具類と共に、まとめて納めた状態で出土した。四世紀後半には、盾・甲冑、矢を入れた靫が形象埴輪として表現されるようになる。四世紀後半の前方後円墳、三重県の石山古墳では、貴人の遺体を埋葬した古墳の中心部を、筒型の円筒埴輪で四角に囲み、そこに盾・甲冑・靫の埴輪を配置していた。貴人の遺体を守護する意味があったのだろう。この形は、五世紀から六世紀、古墳での祭祀・儀礼を表現した人物埴輪群へと発展していく。そこでは祭祀・儀礼の場を護るように、甲冑を装着し大刀と弓矢で武装した武人、盾を持った人物が配置されている。

五・六世紀代の神祭りの場でも、同じような情景が考えられないだろうか。七号祭祀遺跡から出土した盾、矛、鏃（矢）と胡籙、挂甲も、神への捧げ物であると同時に、神の祭りの場、もしくは神が居ます所を守護する役割を果たすため、捧げられたのではないだろうか。それは、天皇の即位後に行われる践祚大嘗祭の大嘗宮で、南北の門に盾と矛が並べられるのと共通するように思われる。

7号遺跡盾中央鉄板（6世紀）

神宝館だより 17
八万点ノ国宝収蔵

七月二十一日から神宝館で開催中の「沖ノ島国宝展×藤原新也展―神息吹く巨岩と深遠の森―」では、沖ノ島神宝のうち金製指輪など約五千点と、藤原氏の写真や文章を融合させた展示で、神秘・尊厳なる沖ノ島を伝えている。本展では平成二十七年から三年かけて修理を終えた神宝二十六件も公開。当大社では、八万点の国宝のうち経年劣化で緊急に修理が必要な百八件の品を(公財)元興寺文化財研究所に委託し、十年計画で修理事業を進めており、今年三月に第一期分が完了した。展示では修理品に作業工程パネルを添えて、文化財修理の実態や意義を周知している。ここで、修理を終えた神宝のうち、七年ぶりの公開である金銅製雛形五弦琴を紹介しよう。

本品はわが国固有の弦楽器倭琴のミニチュア品で、琴頭部に五つの小孔があり、弦を張る琴柱も五つ現存するため、本来、五弦の琴であったとわかる。わが国では七世紀になると神に奉献する祭具として金属製雛形品が考案される。沖ノ島国家祭祀では九世紀まで鉄や金銅製の各種の雛形品がささげられた。本品は琴頭部の鵄の尾のような台形状のつくりから、『延喜式』に伊勢内宮神宝として記載のある鵄尾琴の前身とされる。現存する伊勢内宮神宝、鵄尾御琴とも形状が類似しており、律令祭祀の発現と継承を考える上で重要である。五号遺跡からはもう一面本品よりも小形の琴が出土しており、今回初めて二面の同時展示が叶った。

（福）

上より金銅製雛形五弦琴と金銅製雛形琴（５号遺跡出土）

駐車場規制　お知らせ

9月15日(土)・9月17日(月)
奉納行事開催により下記の通り
規制をさせていただきます。

■規制期日
9月14日(金)～9月18日(火)

■規制内容
第一駐車場完全閉鎖

祈願は規制期間中、儀式殿にて
受付いたします。
ご参拝の際は第二駐車場または
第三駐車場をご利用ください。
ご協力よろしくお願い致します。

第685回　宗像大社歌会詠草

■大西晶子選　■毎月25日〆切

城山で錦江湾を眺むればナポリを偲ぶカゴシマ通り　秋吉　嘉範

欧州留学時に見たナポリのカゴシマ通りを懐かしむ作者。二句「眺めつつ」結句「～通りを」と。

帆を立てた笹舟得意だった朋どこでたゆたう天の川風　早川　祥三

笹船が効いている。上下を入れ替え〈天の川のどこで流すか帆を立てた笹船作りの上手かった友〉と。

筆書きはノとメききレを忘れじとう分教場の師は三人なり　山本　静子

山本さんの字はいつも力強く読みやすい。運筆の基本を教えた師への敬愛の籠った歌。

われ知らずコーヒー好きとなりてゐて父の日にコーヒーの大瓶もらふ　佐々木和彦

コーヒーが好きな作者と知る家族、暖かな歌。三句は〈なりをりて〉とすると締まる。

「大社へはここで乗替えです」という車内案内まだ間違のまま　山﨑　公俊

何度も訂正を申し入れているのに無視されている作者とのこと。結句〈誤りのまま〉。

ばったの子向日葵の葉に穴を空け捉える我が手自在に躱す　萩原　勉

向日葵の葉を食い荒らす飛蝗に翻弄される作者。上句を〈向日葵の葉を食いやぶる飛蝗の子〉。

耕運機に早やも田浦は浮雲を映して植田の整いてをり　森　龍子

田植え前の田の風景が清々しい。〈耕運機に植田整い水の面に早やも浮雲写していたり〉。

耐え難い暑さで蕾ふくらませサルスベリ花沸々と咲く　本田エリナ

擬態語「沸々」が良い。四句の花は咲くで分かるので色を入れ〈白サルスベリ〉などとして。

全方位咲きの百合なりきるに惜しきらねば予報の大雨にあう　吉﨑美沙子

切るべきかどうか迷う作者。四句、予報の雨でも良いが〈～明日の〉など時間でも良い。

第656回　俳句

恋競う帆立笹舟天の川　早川　祥三

◆選者詠

苦瓜のつるとしほれた葉のからむ
窓からの風ひやりと九月
御神楽の大蛇より出で青年は
肩で息つく大蛇の死後を

御造営奉賛者御芳名

（平成三十年七月）（順不同・敬称略）

五〇〇、〇〇〇円

広島市　山田　隆徳

三〇、〇〇〇円

大阪市　岡井信主介
倉敷市　早川真木子
小平市　佐藤真喜緒
佐世保市　井上　英明

一〇、〇〇〇円

大阪市　名倉煌圭斗・駿郎夫・怜央
新宿区　南出　公宏
奈良市　加藤　真義
福岡市　入江　隆文

五、〇〇〇円

足立区　増田　勇樹
香芝市　植村恵美子
香芝市　植村　敏子
春日市　野村　光輝
川越市　西川　博幸
北九州市　明治　智之
札幌市　杉村　隆史
四条畷市　大平　礼子
品川区　佐守あゆみ
品川区　田中千衣子
下関市　宗像　孝哲
吹田市　長島　宏明
中央区　新島　規雄
中央区　番場　智之
豊島区　石嵜喜代美
奈良市　花谷　量治
浜松市　鈴木　芳子
福岡市　福嶋　弘康
福岡市　園木　義行
福岡市　鬼塚　和枝
福岡市　加藤　澄美
福岡市　加藤　大志
港　区　吉岡　純子
横浜市　羽賀　洋子
横浜市　羽賀　護
四日市市　川本　亨

三、〇〇〇円

糸島市　国分　一美
大阪市　福地　昭義
下関市　松本由香乃

二、〇〇〇円

朝倉市　矢野　宙之
阿武郡　吉永　邦男
池田市　吉羽　剛
宇佐市　加藤　昇一
大分市　菅原　裕恵
熊本市　和田　昭博
古賀市　地下　雄晃
渋谷区　波多野　衣
広島市　大廣　和美
福岡市　中野　俊史
福岡市　谷　千代子
松戸市　渡邊　尚子
松戸市　渡邊　義介
宗像市　大谷　絵理
宗像市　渡邊セツ子

むなかた
長月（ながつき） 第691号

9月 まつりごよみ

1日	総社月次祭 引続き 高宮祭、第二宮・第三宮祭、宗像護国神社祭 風鎮祭（月次祭終了後）	午前11時
15日	総社月次祭 引続き 高宮祭 第二宮・第三宮祭	午前11時
23日	秋季皇霊殿遙拝式	午前10時
30日	秋季大祭宵宮祭	午後６時

編集後記

海をメインテーマとして、各分野で活躍するリーダーや、学識経験者が集まり宗像国際環境一〇〇会議が開催された▼プログラムの中で、竹漁礁作成がある。磯焼けにより減少した海藻をかつてのように再生させ、豊かな海を後世に残そうとする活動である。作成方法は福岡県立水産高校の生徒から学ぶ。大人が子供たちから学ぶのである▼大人が子供たちに教えるというベクトルは当たり前となっているが、子供たちから教えられることは多くある▼古代の技術は大陸より渡来したと、習う歴史。このベクトルも見つめ直す必要がある。沖ノ島出土の神宝を見るとそう思わせられるばかりである。

（黒）

宗像大社

2018年9月1日発行（月刊）／宗像大社　〒811―3505　福岡県宗像市田島2331　電話（0940）62―1311（代）　http://www.munakata-taisha.or.jp/